

議案第 102 号 小平市第四次長期総合計画について 生活者ネットワークとして賛成の討論をいたします。

本長総策定には 2018 年市民アンケートやワークショップ、学校への出前授業、意見募集などを行いました。なかでも 2019 年から 4 回開催された、無作為抽出で募集されたメンバーによるワークショップの開催は、全体で 126 人の参加がありました。さらに若者へのインタビューや外国の方へのインタビューも行ったことは、より多くの市民の意見を聴取し、長総への関心を高めることに大きく貢献しました。

さらに 2019 年からは審議会を開催し答申まで 10 回の審議を重ねました。どの回も真剣に小平市の現状と将来について審議がなされていました。今年に入って新型コロナウイルス感染症の影響で審議会が予定通り開催できるか危ぶまれる場面がありましたが、オンラインで開催するなど工夫を重ね、予定通りの日程で進めることができたことを確認しました。

また市議会では特別委員会を立ち上げ今年 12 月まで 8 回の調査・審査が行われました。委員会では委員全員が質問、提案、意見を述べるなど、次期長総の計画期間、内容について十分な調査が行われたものと判断しています。

生活者ネットワークとしては、取り組みの方向性、視点の全体が網羅できているかに注目して調査をしてきました。審議会の傍聴や委員会での質問、提案を通し、大きな方向性を示す長期総合計画として、十分に役割を発揮するものと判断しました。また、新しい市長に変わった場合、新市長が特に取り組みたい施策については、中期的な施策の取り組み方針・実行プログラムの中で取り組んでいくことを確認したことや、ネットとして提案し続けた子どもの権利の視点は文言としてこそ入っていませんが、すべての子どもに焦点を当てる旨の文言は入れられたこと、都市農業振興の大切さを訴え、取組の視点として掲載されることも賛成する根拠となっています。

(仮称) 小平市第四次長期総合計画基本構想は 2009 年策定の小平市自治基本条例制定以降初めて策定される計画で、市制施行 100 周年の将来の世代に小平のまちづくりを引き継ぐことを見据えて、12 年後の小平市の将来像を「つながり、共に創るまち、こだいら」と設定しています。市や市民などすべてのまちづくりの主体が進むべき方向性を共有する羅針盤としての役割を発揮できるものと考えます

最後に、本長総では、基本目標を着実に実施するためとして、自治体経営方針と連携することが示されました。自治体経営方針を市民、市民団体等としっかり共有し、本長総が確実に実行されるよう尽力されるときともに、今後も、子どもの含めた市民参加、協働、自治を力強く推進し、より良い市政運営となるよう強く要望します。生活者ネットワークとして、今後もしっかりチェックしくことを申し述べ、賛成討論いたします。